

# 自然再生実地研修（矢藤園農場）第3回

H.29 6/2(金)～6/4(日)



# プログラムの内容

6/2 (金)

- ・ 自然再生、安全講習 座学
- ・ 実地研修 ( 田んぼ内の生物調査、田んぼの修復作業 ( 水漏れ箇所)、日当たりを考慮した樹木の伐採 ( モッコク、ツバキ ))
- ・ 交流会 沼津インターグランドホテル

6/3 (土)

- ・ 実地研修 田んぼへの土入れ
- ・ 実地研修 沢での生物調査、石組作業
- ・ 実地研修 人工林、間伐後の観察
- ・ 交流会 矢藤園内での BBQ

6/4 (日)

- ・ 実地研修 萌芽更新 ( 2月に計58本の伐採を実施。萌芽更新の観察 )
- ・ 実地研修 水位調整用配管作り、田植え作業

## 6/2（金）自然再生、安全講習 座学

矢藤園挨拶、養父先生挨拶、各自己紹介（矢藤園職員、緑化センター）、養父先生より、自然再生、安全講習についてスライドにて講義。



写真1．矢藤さん、養父先生ご挨拶



写真2．養父先生講義

## 6/2（金）実施研修

作業 田んぼ内の生物調査

作業 田んぼの修復作業（水漏れ箇所）、日当たりを考慮した樹木の伐採（モッコク、ツバキ）



写真3．モリアオガエルの産卵が見られた。



写真4．田んぼ内の生物調査1



写真5．田んぼ内の生物調査2



写真6．田んぼの修復作業

写真7．田んぼの修復作業（モッコクの伐採）



## 6/3（土）実地研修

田んぼへの土入れ（昨日の続き）  
沢での生物調査、石組作業



写真8．田んぼへの土入れ（昨日の続き）



写真9．土を入れとんぼでならず



写真10．沢での生物調査（昨年との比較）

### 沢での生物調査

昨年行った調査との比較。  
魚は増え、沢蟹は減っていた。  
昨年は見られなかったミルヤ  
ンマのヤゴも確認できた。

上流河川の影響受け、小規模  
河川の生態系は単純なもの  
となっている。

## 6/3（土）実地研修



石組作業( 流れを止めたまり場を作る。)

- 1 . 全体の構図を考え、動かす石を決める
- 2 . ラッカー等でマーキングを行い、ワイヤーで固定、ユンボで引き上げ動かした。
- 3 . 今回最も危険を伴う作業であり、声かけ等、作業者間の連携が大切である。
- 4 . 大きな石の固定後、その他の小さな石を組み、たまり場を作る。

写真 1 1 : ユンボを用いた大掛かりな作業



写真 1 2、1 3 : どの面を上にするかが大切であり、かませるように石を組む



写真 1 4 : 3カ所のたまりが完成

## 6/3（土）実地研修

### 人工林、間伐後の観察



写真 1 5 : 人工林の入り口

#### 人工林、間伐後の確認

矢藤園内の人工林では混交林を図る。枯れ木伐採、間伐を実施。また生物多様性を考慮している。大量の間伐は森が荒れてしまうので注意する。



写真 1 6 : 踏圧箇所を増やさぬ様気をつける



写真 1 7 : 間伐後の植生を観察する

## 6/3 (土) 交流会

矢藤園農場内でのBBQ (流しそうめんも )





## 6/4（日）実地研修

萌芽更新（2月に計58本の伐採を実施。萌芽更新の観察）



クヌギ・コナラの萌芽更新を観察する。それぞれの樹種にて萌芽の仕方に違いがあるか等。また周囲の下草は昨年秋に草刈りを実施している。現状は草の高さは現状10cm程度、実生を生かす、生物を生かす役割も果たしている。

写真18：全体で30本程度の実生が確認できた



写真19、20：ネットや金テープによる鹿対策

## 6/4（日）実地研修



写真 2 1 : 平澤さんによる作業説明

水位調整用配管作り、田植え作業  
平澤さんにご指導いただき、水位調整用配管作りと田植え作業を平行して実施。  
田植えのコツは、ペンを持つように握り、垂直に入れる。斜めに植えてしまうと、成長が遅くなるので注意する。



写真 2 2、2 3 : 田んぼの水位調整用配管作り



写真 : 2 4 田植え経験のない方がほとんどでした。



写真 2 5 : 認定証授与、お疲れさまでした。

養父先生の思い、同じ工程の工事でも環境によって異なる。ここでは、自然再生のベースとなるものを学びそれぞれの仕事に生かしていかして欲しい。